

経営者への活きた言葉

中核部品は日本で集中生産 野路 國夫(コマツ社長)

1. 経営にはぶれない軸が必要だ。コマツで言えば需要地で生産し、いったん工場を作ったら決して撤退しない。そしてエンジンなどの中核部品は日本で生産する。経営者が代わっても世の中が変わっても守るべき一線は変えない。
中核部品を日本で集中生産するのは、強さの源泉だから。
日本は技術革新を起こす上でドイツと並び世界で最も恵まれた国だ。素材から加工までピリッと光るさまざまな企業が集中している。この有効さを理解すべきだ。
2. 数年前、「建機需要が急増している中国でエンジン工場を作ろう」という意見が出たが、反対してやめさせた。一時的にコストが下がっても長期的に競争力が低下する。
日本のような技術革新が起こらないからだ。
3. 工場は生き物で常に変化している。工場の今の姿を知らなければ、1000億円をかけても有効な対策は打てない。当社では工場の点検保守を普段から自前でしている。200人の保全要員を抱えており、決して減らさない。
コストを考えれば外注するという選択肢もあるが、今回の震災では彼らが大活躍したからこそ早期に復旧できた。コストだけを考えて経営はできない。

(参考:「日経ビジネス」2011年6月13日号)

経営者のための理念・哲学

自分との間で信義を守る 石坂 泰三(元東芝社長・会長。経団連会長、昭和50年死去)

1. 「君は僕の鞆^{カバン}持ちではない」。「そんなことに気を遣わずに勉強して頭を使いたまえ」。
昭和38年、東芝の秘書室に配属されたその日、外出する石坂泰三さん(当時・会長)が、鞆^{カバン}をしようと
する私(石坂泰三元秘書・宮尾舜助)の手を止め、かけて下さった言葉です。
石坂さんの言葉に「他人が彼をどう評価しようとも、自分との間で信義を守り、誠心誠意、交際してくれ
る人のためなら、ひと肌脱ぐのは男の本懐^{ホンカイ}だ」があります。
2. 石坂さんは、まさに「人間須^{スベカラ}く王道を歩け」という信念をそのまま貫いた方であった。思うに、石坂さん
のそういう人間性は幼少期から培われたものなのではないでしょうか。
生活は決して豊かではなかったものの、学問好きの両親から四書五経を教わり、青少年期は明治の
よき旧制高校の校風の中、古典などに親しんで人格の基礎を培われました。

(参考:「致知」:2011年10月号)